

京都:Re-Search 2020

京都府内では交流人口の拡大、地域の活性化へ繋げるさまざまな取組を行っています。その一つとして、アーティストが一定期間滞在し、地域で制作を行うアーティスト・イン・レジデンス事業※「京都:Re-Search」を実施し、地域が本来持ち得ている魅力やそのポテンシャルをアートの視点から引き出すことを試んでいます。

アーティスト・イン・レジデンスとは...

- 芸術制作を行う人物が、ある土地に一定期間滞在しながら作品制作を行うチャンスを提供する事業のこと。
- (日本国内では)アーティストの育成や支援だけでなく、空き家・商店街の空店舗を活用した地域振興や人の交流による地域活性化の手段としても用いられている。

京都:Re-Search 2020 in 八幡

令和2年度は、八幡市において、短期アーティスト・イン・レジデンス事業「京都:Re-Search 2020 in 八幡」を実施します。令和2年8月24日から9月6日の14日間にわたり、京都府内のみならず、ほかの地域で活動するアーティストや工芸家、デザイナー、建築家など、クリエイティブな分野で活動されている人が八幡市に滞在しながら、各自が設定したテーマに沿って、ゲストアーティストと共に、八幡の風土や歴史等の調査を行います。八幡での発見を活かしたアートプロジェクトや作品プランの構想を立て、次年度にアートプロジェクトや作品プランの実現を目指します。またそれらを記録しデータ化していき、地域の新たなアート・ドキュメントを作っていきます。講師には、国際的に活躍しているアーティストやキュレーターたちを迎え、リサーチの手法を学ぶワークショップやフィールドワーク、参加者が行うリサーチへのアドバイスを予定しています。



01/02 リサーチの様子
03 ワークショップの様子

申込みについて

令和2年7月10日(金)17時まで

参加申込書
ダウンロード先 [www.pref.kyoto.jp/bungei/
artist-in-residence.html](http://www.pref.kyoto.jp/bungei/artist-in-residence.html)

参加申込書
送付先 bungei@pref.kyoto.lg.jp

応募方法

参加申込書をダウンロードし
必要事項を記載の上、
メールにて提出して下さい。
※申込の際、メールの件名に
「八幡参加希望」と記載し送付下さい。

問合せ先

京都:Re-Search実行委員会事務局
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入薮ノ内町
京都府文化スポーツ部文化芸術課内
TEL 075-414-4279 (平日8:30~17:15)
MAIL bungei@pref.kyoto.lg.jp

京都府アーティスト・イン・ レジデンス事業

募集要項

【募集締切】

2020.7.10 (金)

17時まで

京都: Re-Search 2020 in 八幡

kyoto-research.com

参加者募集!!

【ゲストアーティスト】

石川 竜一 [写真家]

【プログラムサポート講師】

島袋 道浩 [美術家]

服部 文祥 [登山家・作家]



令和2年度日本博を契機とする文化遺産コンテンツ創成事業

事業概要
ABOUT

01 実施期間

令和2年8月24日(月)～9月6日(日)

02 講師

- ・石川 竜一 [写真家]
- ・島袋 道浩 [美術家]
- ・服部 文祥 [登山家・作家]

03 滞在(宿泊)場所

京都府八幡市内の滞在施設

※ただし、個室なし、男女別の共同部屋となります。

04 募集人数

5名程度

05 応募資格

- ・本事業開始日に20歳以上40歳以下の方
- ・期間中のすべてのプログラムに参加できる方

06 事業中の助成内容

- ・調査経費及びアーカイヴ作成費として
1名当たり5万円を助成
- ・居住地から八幡市内までの交通費として
1名当たり上限3万円を助成
- ・滞在施設の提供 ※8月24日～9月6日、
そのほか滞在に関わる費用は自己負担

07 募集期間

令和2年7月10日(金)17時まで

08 選考等のスケジュール

提出いただいた書類を元に選考を行います。

(1) 選考ポイント

- ・本人の意欲
- ・独創的なリサーチ計画

(2) 結果通知 令和2年7月20日(月)

応募者全員に選考結果をメールで通知いたします。

09 事業主体

京都:Re-Search実行委員会

(構成:京都府、八幡市ほか)

講師プロフィール
PROFILE

石川 竜一
ISHIKAWA Ryuichi

1984年沖縄県生まれ、沖縄国際大学社会文化学科卒業。在学中に写真と出会う。2008年より写真家 勇崎哲史に師事し、写真に関わる広い分野の企画から運営までのアシスタントを務める。2014年に沖縄の人々や身近な環境で撮影したスナップを纏めた『okinawan portraits 2010-2012』『絶景のポリフォニー』で、木村伊兵衛写真賞、日本写真協会新人賞、沖縄タイムス芸術選奨奨励賞を受賞。沖縄を拠点に、日常のスナップやポートレイトを中心に、現代の矛盾と混沌に向き合いつつも、そこから光を探るような作品を発表している。2020年現在、活動の場を日本国内外に広げ、その内容もビデオ作品や他ジャンルのアーティストとの共作、ミュージシャンとのセッションなど多岐にわたる。



《八重瀬 YAESE》
2014 (絶景のポリフォニーより)



《掘削》
2019年 Reborn-Art Festival 展示作品



美術家

Photo: Noguchi Rika

島袋 道浩
SHIMABUKU

1969年神戸市生まれ。那覇市在住。1990年代初頭より国内外の多くの場所を旅し、そこに生きる人々と動物、風習や環境に関係したインスタレーションやパフォーマンス、ビデオ作品を制作している。パリのボンビドー・センターやロンドンのヘイワード・ギャラリーなどでのグループ展やヴェネチア・ビエンナーレ(2003/2017)、サンパウロ・ビエンナーレ(2006)などの国際展に多数参加。2004年から2016年まではドイツ、ベルリンを拠点にし、ドイツ、ブラウンシュワイグ芸術大学やスイス、チューリッヒ芸術大学などで客員教授を務める。著書に[扉を開ける](リトルモア)、絵本[キュウリの旅](小学館)などがある。



作家
登山家・

C. ISHIKAWA Ryuichi

服部文祥
HATTORI Bunsho

1969年横浜生まれ。94年東京立大学フランス文学科とワンダーフォーゲル部卒。学生時代からオールラウンドな登山をおこない、1996年K2(8611m)登頂。北アルプス北部などで冬期初登攀記録が数本。2000年頃から食料と燃料を現地で調達する長期登山のサバイバル登山を提唱実践。その思想と実践を著書『サバイバル登山家』で報告し、情熱大陸などに取り上げられる。『ツンドラ・サバイバル』が第5回梅棹忠夫山と探険文学賞、小説『息子と狩猟に』が第31回三島由紀夫賞候補。

ワークショップスケジュール
WORKSHOP SCHEDULE

8/24(月)	ガイダンス及びゲストアーティストとの交流会	
	時間 15:00～ 会場 八幡市内 講師 石川 竜一	
8/25(火)	フィールドワーク、その後参加者からのプレゼンテーションとゲストアーティストによる講評 講師 石川 竜一	
8/26(水)～ 8/29(土)	各自リサーチ 期間 計4日間	
8/30(日)	参加者による中間報告会及び ゲストアーティストによる講評 講師 石川 竜一	ワークショップ①「折り返しディスカッション」※1 講師 島袋 道浩×石川 竜一
8/31(月)	ワークショップ②「地域とアートプロジェクト」※1 講師 服部 文祥	
9/1(火)～ 9/4(金)	各自リサーチ 期間 計4日間	
9/5(土)	講評会及び活動報告展 ※2 活動資料などを用いたレジデンス期間の報告を行います。 講師 石川 竜一	
9/6(日)	参加者の活動報告展 活動資料などを用いたレジデンス期間の報告を行います。	

※1 本プログラムでのワークショップとは、情報の交換や共有のみならず、アイデアの出し合いやディスカッションを繰り返し、各自が設定したテーマに沿ったアートプロジェクトや作品プランの実現に向けた戦略や施策などを固めていくものです。

※実施期間中、下記プログラム以外は、各自の計画により八幡市内を調査し、アートプロジェクトや作品プランの構想を策定します。
※スケジュールは予定であり、実施にあたっては変更する場合があります。

※2 次年度、本プログラムで提案されたアートプロジェクトや作品プランをもとにした展覧会を伴うアーティスト・イン・レジデンス事業「大京都 2021 in 八幡」の開催を八幡市内で予定しています。

若手のアーティストや工芸家、デザイナー、建築家など、クリエイティブな分野で活動されている 人が八幡市に滞在しながら、各自が設定したテーマに沿って、ゲストアーティストと共に、地域の風土や歴史等の調査し、そこでの発見を活かしたアートプロジェクトや作品プランの構想を立て、次年度の実現を目指します。あわせて、その活動をデータ化しウェブサイト、SNSで発信すると共にアートの視点による地域の新たなドキュメントを作成していきます。

